
アラシのごとく！

猫耳執事

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アラシのごとく！

【Nコード】

N1276BA

【作者名】

猫耳執事

【あらすじ】

サンタさん（CV、若●）の部下のミスによって死んでしまった主人公のお話

これからハヤテのごとく！の世界で頑張って生きます！！

プロローグ（前書き）

駄文です。

この小説の今後は読者の皆様しだいです。

ヒロインはヒナちゃんがいいな？

作者の更新速度は感想＋お気に入り＋評価で決まります。

プロローグ

・・・・・・・・みんな聞いてくれ、今俺の目前に変なおっさんがいるんだ。

上から下まで赤と白のめでたそうな衣装を纏って真っ白なお髭を蓄えたおっさんがいるんだ・・・・・・・・見るからにサンタの格好をしたおっさんがな!!!!

しかも

「おゝまえは死んだのだよおゝ若者よゝゝ」

すごく聞き覚えがある声をしてるんだ!!ド●ゴン●ールのセ●や某魚だらけの国民的アニメのア●ゴさんの声なんだっ!!

「いゝゝかげんにこちら話を聞きたまえゝゝ」

「なんですか？わかも・・・・・・・・ところであなたは誰ですか？」

「君に素う晴らしいプレゼントを贈りにきたサゝンタさんだよおゝ
ゝ（キランッ）」

「……とりあえず、クリスマスは過ぎてますよ？」

「そんなことはわかってるよお。君は馬鹿なのかねえ？」

「（イラッ）なら何しに来たんですか？もう新年なのでサンタなんか呼んじゃいませんよ？と言うかここ何処だよ？今すぐ家に帰せ馬鹿野郎！」

「いや、ちょっとしたミスでねえ、君の家に部下のソリが突っ込んでしまったのだよハッハッハッハ。そのソリが君に直撃してしまってねえ、君は新年早々死んでしまったわけなのだよ。その部下は今頃北極圏のどこかでトナカイに引きずりまわされているだろうぶるあああああっ！！」

「はあ？！何言ってるんのおm「そんな訳で、神や魔王とよく酒を飲んだりしてうるう、こころやさしいサンタさんがあ、きみに新しい人生をプレゼントしちゃうぜえ、ハイ拍手う！！」

「てめえ何わけのわかr「ハイ拍手う！！」おm「ハイ拍手う！！」だかr「ハイ拍手う！！」……（パチパチパチ）……死んだのは分かったけど新しい人生ってどういうことだ？！」

「かゝみちゃんとかちやんにたゝのんでみたけどよう、『流石に生き帰せれねえわゝゝ（笑）』って話だから我慢してくれい。後戻りはできねえ、生前の記憶は適当に消しておくから覚悟しとけえ。お詫びといつちやあなんだが適当に特典盛り込んでおいてやゝるから、じゃあな若者よゝゝ、もういっぺん死んだときにまゝた会おう
！！」

シャンシャンシャンシャンシャン

「ちよ、お前らなんだよっ！！俺をソリに縛り付けんな！！はあ？もう出発？グッドラック？てめえらふざけてんのか？！安全は保障できないってどうゆうことだよ！！『カウントダウン5・4・3』お前ら覚えとけよ？！いつかぶん殴r『2・1・0トナカイ型時空突破新世代ソリ試作機へタイタニック＜発射します』その名前はありえねえええええ……」

「こゝして少年は旅立ったのであったあ。さらば少年よお、いつかまた会おう。」

プロローグ（後書き）

感想待ってます＋あなたの一番好きなキャラクターに対する一言も待ってます

そういえば原作で自分の好きなアニメ（ゲームだったっけ？）のキャラが違う二人（駄目主人と書記）が言い争うってシーンあったっけ・・・

第一話 紅いサンタクロース（前書き）

本当のサンタは黒色の衣装を着ていたそうです。

今の赤白サンタは、コカ●ーラのイメージキャラクターとして採用された際の物が世界に広まって標準化してしまったそうです。

第一話 紅いサンタクロース

十六年前

父「ハヤテだ、この子の名前はハヤテ。ハヤテと名づけよう」

母「まあいい名前。でも、どうしてなの？」

父「そんなの決まってるじゃないか母さん。借金取りから疾風の
ように逃げられる強い子に育ってほしいからだよ」

（赤ちゃんハヤテ、あきれて泣き止む）

母「ならもう一人のこの子はどうするの？」

父「それももう決めてあるさ。ハヤテの双子の弟に当たるこの子の
名前はアラシ、綾崎アラシさ」

母「ハヤテと同じでいい名前ね。で、どうしてなの？」

父「簡単だよ母さん。借金取りを嵐のよう^{あらし}に叩きのめしてくれる

ような力強い子に育って欲しいからさ」

（心の中で「暴力で解決しようとするなよ！」とツツコム赤ちゃんアラシ）

母「へえ、それはすてきな名前ねえ」

父「だろー、僕天才なんだ。これでいつ子ども達を置き去りにして逃げることになっても安心だよ」

母「さすが父さんね」

父&母「はははははは♪」

こうしてハヤテ、アラシと名づけられた少年達は、生まれた日から完全無欠の能力を身に着けるべく、宿命づけられたのであったあ。

（CV，若●）

h a y a t e S I D E

その昔、夢に出てきたサンタに聞いた。

「ねえサンタさん……どうして僕達にプレゼントを持ってくるの？」

『それはね、お前達の家がビンボーだからだよ。』

「!! (ガーン)」

サンタは噂以上に正直な奴だった。

「ええ!?!? で……でもそれじゃ僕達はもうしたらいいのさ!?!? アラシにゲーム買ってあげるって言っちゃったのに!?!?」

『働け少年!?! 「働かざる物喰うべからず」欲しい物は自分でどうにかしろ。だが信じる……最後に笑うのはきっと……』

・ひたむきでマジメな奴だから・・・それでもお前達にはプレゼントはやらないけどn《てめえー！！まちやがれえー！！
！》・・・厄介な奴が来よったのう』

《ハヤテ！！こんな奴のいうことなんて聞かなくていい！！こいつは今すぐ俺が殺る！！死ね！このクソサンタ！！積年の恨みここで晴らしてやる！！》

『ちょ、おま、去年よりもパワーアップしてね！？というか自分の兄の夢に乱入ってどんだけだよ？！』

《黙れ！！お前が実行犯だって事を知った後から俺は毎日鍛錬を欠かさなかったんだよ！！某公式チートさんも言ってたろうが！「気合で何とかなる」って！！》

「（ポカーン）」

僕はこの後、自分の双子の弟がサンタを血まみれになるまでボッコボコにする様子をただただ見ていることしかできなかった。

《ふう、これでいろいろスッキリしたぜ!!》

弟のものすごくいい笑顔がとても印象的だった。

第二話 僕らとヤッサンのランデブー（前書き）

お気に入りはまだ三件だと・・・・・・・・

とりあえず三名の皆様ありがとうゴザイマス

総アクセス数が200を満たないこの現実・・・・・・・・O R Z ガクッ

第二話 僕らとヤッサンのランデブー

a r a s i S I D E

生まれたときから前世の知識を完全に覚えていた僕は、幼児ゆえの羞恥プレイを乗り切り、幼い頃から夢に出てきた仇をぶん殴り（とてもつらい修行をしたことは言うまでもない）、自分の親の破綻振りを思い知らされながら生きてきた。

今になってはサンタからもらった特典とやらにとっても感謝している。

そんな僕が新しい生を受けてから早16年……

今、とても焦っていた

「迂闊だった！！都内から出れば流石にばれないだろうと思ってたのに！！！」

県外の有名な万屋よろずや《決して万屋銀●なんて名前じゃないからなっ！！》にアルバイトとして勤めていた僕は自分の考えの甘さを後悔していた

「これじゃ年が越せないよ！！まさか職場に押しかけて子供の給料

騙し取っていくなんて!!」

せっかく家から車で四時間はかかるような遠い職場を探したって言うのに、それを見つけ出して「急に祖母の入院がしてしまつて・・・
・アラシにはもう言ってますからどうか今月分の給料前借させてくれませんか？」なんて言つて数十万全額持つていくなんて・・・

・
しかも年齢を偽つて働いていたことまでばらして行つたせいで社員さんからは「流石に高校生をこのまま働かせるわけには行かないから・・・ちゃんと卒業したらぜひこの会社に来てね!!」つて言われて・・・・・・気持ち嬉しいですけど今お金がいるんですよ!!

『もし両親が借金してた場合、返済に充てるための貯金』を下ろすしかないか・・・

「とりあえず、ハヤテと相談しないと。ハヤテ、帰ってきてる?」
(ガラッ)」

「アホー！　！」

「いきなりどうした!!・・・とりあえずその手に持っているものつつごい桁の借用書から今の状況は理解したわ。とにかく逃げろぞ!!」

『ゴリア綾崎い!! 息子達もらいに来たぞー!!!! 出て来いや
ゴリア!!!!』

「ほら来たぞ！こつちだ！！早く！！」

「わ、わかった！」

hayateSIDE

「とりあえず差し押さえの手が回る前に銀行から現金下ろしてくるから公園で待ってて!!」

そう言ってアラシはどこかに行ってしまった……いつの間に
貯金してたんだ？

それはさて置き……あのタイプのヤクザは一億五千万なんて
金額の借金を絶対見逃すわけがない！！

※綾崎家の双子は両方とも長年の経験からどのタイプのヤクザかを
一目で見分けられるというできれば一生目覚めて欲しくない能力を
持っていた！！

幾らアラシでも一億五千万なんて金額を貯金してるはずがないし、
そんなはした金持って行っても臓器を売られてしまうのは確実！！

僕らみたいな人間が………てっとり早く一億五千万作るには……
……それこそ強盗か身代金目的の誘拐くらい………

こうして少年は勝手に一人で思考を突っ走らせて悪の道へ進もうと
していったのであったあ（CV、●本）

第三話 ロリコンに育てたつもりはありませんっ!! (前書き)

少し評価が増えて嬉しいです!!

第三話 ロリコンに育てたつもりはありませんっ!!

a r a s i S I D E

無事に通帳から全額下ろすことができた僕は、ハヤテとの待ち合わせ場所である負け犬公園（嘘じゃないよ!!）に急ぎました。

すると

「人の獲物に手を出すなあ!! ネロの命日に（本日は12/24）ナンパなんて!! お前らどこのパトラッシュだ!! 帰る家がある人はとっとと家に帰れ!!」

大声で意味のわからないことをほざいている兄がいました……

まあ、小さい少女をかばっての行動だったみたいで、あっコートを貸してあげるなんて親切ですね？ 身内としては優しい子に育ってく

れて嬉しいかぎりです。

ですが

「僕と．．．．付き合ってくれないか？」

「へ？」

ロリコンに育てた覚えはありませんっ！！

「僕は．．．．（人質として）君が欲しいんだ。」

今までそんな様子はなかったのに．．．．兄をこの手で始末しないといけなくなるなんて．．．

「命がけさ．．．．一目見た瞬間から．．．．君を．．．君を（人質として）さらうと決めていた」

「はい、ちょろろとこっちに来ようか？ ハヤテ君？（ギリギリギリ） そのとっても可愛いお嬢さんはちょっと待っててね？ あ、あと君のお家の電話番号も教えてくれる？」

「かっ可愛い／＼．．．わ．．．わかった．．．」

「じゃあ、ちょっと待っててね♪．．．オラァ！ 早く来い性犯罪者！！」

「ち、違うんだ！ これはちょっと魔が．．．って性犯罪者！？ 僕はただ身代金を．．．」

「．．．今ならまだ未遂で済むから．．．警察んと、公衆電話発見！！ とりあえず、保護者の方に連絡を．．．「きゃー！ 雪で滑ってー！！」そこをどいてくださーい！」はい？」

目の前には迫り来る自転車が．．．ドコンッ！！

「あ．．．お．．．う．．．げふ。（バタ．．．）」

こうして少年達の人生は、幕を閉じたのであったあ（CV、●本でお送りしております）

「あの・・・ごめんなさい・・・だ、大丈夫ですか？」

「ててて・・・」

・・・生存能力は黒いG並みの少年達なのであったあ（CV、
若●でお送りしていますってばあ）

第四話 運命は英語で言うとデステイニー（前書き）

お気に入りが9件になりました!!

ありがとうございます!!

第四話 運命は英語で言うとデステイニー

a r a s i S I D E

「あ・・・お・・・う・・・げふ。（バタ・・・）」

「あの・・・ごめんなさい・・・だ、大丈夫ですか？」

「ててて・・・」

ハヤテを抱えて避けることくらいはできたけど・・・あのタイミングで来られると避けるわけにはいかないじゃないですか、避けたらこの女性が怪我をしてしまうかもしれませんでしたし

「あの・・・医者さん呼びましょうか？」

「・・・」

綺麗な人ですね・・・今まで見た女性の中でも1，2を争うような・・・

・・・って完全にハヤテは見とれちゃってますね？

「あの・・・体は？」

「体がどうしましたか？（スクツ）」

「（・・・・・・・・）えっと・・・・・・・・」

「ご心配なく。頑丈だけを取り得ですから。」

「（・・・・・・・・）では、そちらの方は・・・・・・・・」

「ああ、ぜんぜん大丈夫ですよ？コレでも兄よりは丈夫ですから？」

「あら、ご兄弟だったんですか？それは気づきませんでした。」

「（お・・・驚いたよパトラッシュ・・・世の中にはこんなキレーな人がいるんだよ・・・お前は犬だからわかんないだろうけど。）」

「（ハヤテは今絶対変なこと考えてんだろーな・・・）一応双子な

んですよ？二卵性なので似てませんけど・・・」

「そうなんですか・・・えっと・・・そのお兄さんは本当に大丈夫ですか？ボーとしてらっしゃいますけど？」

「へっ！？はい、もちろん！！頭はいつもゆるんでいますから！！」

「あの・・・ご無事でしたらちょっとお聞きしたいことがあるのですが・・・よろしいですか？」

「え？なんででしょうか・・・？」

~~~~~

『あなた、恋人とかいますか？』

『！！』

『自転車であなただを轢いた瞬間思ったんです・・・これは運命。英語で言うところのデステイニー。ですから私、あなたのことが・・・』

『ドキドキドキドキ』

~~~~~

「(なんて嬉しい展開に……せっかくのクリスマスだし……
やっぱ……)」

「ジトーーー(ハヤテの奴……絶対へんなこと考えてんだろうな・
……ハァ……)」

「(うーん……本当に大丈夫かしら……)」

「……で、その子の特徴は？性別とか、来ている服の色とか、年
齢とか……」

「女の子を探しているんです。13歳になるちっちゃい女の子なん
ですけど……」

「もしかして……パーティードレスとか着てませんでした？髪
型はツインテールで……」

「そうなんです！！あの世間知らずだから……誘拐犯にだま
されてヒョイヒョイついて行かないか心配で……って心当たり
があるのですか？」

「はい、ちょうど今ご自宅に電話W「そいつ!!!」ゴフウ!!!ハ、ハヤテ・・・貴様・・・ガクッ」

「（借金を返すためにもここで失敗するわけにはいかないんだ!!!）悪いですけど・・・知りませんよ・・・（誘拐する）予定がありますから僕たちはこのへんで・・・」

「そ、そうですか（弟さんがいきなり倒れかけたけど・・・大丈夫かしら?）・・・もう少し探してみます・・・あ!!あの・・・ちよっと待って。」

「はい?（フワッ）・・・え?」

「こんな寒い夜にそんな薄着でいると・・・風邪を引いちゃいますよ・・・?」

「・・・（じわっ）えぐっ・・・」

「え?」

「うああああ・・・（ポロポロポロ）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1276ba/>

アラシのごとく！

2012年1月4日16時53分発行